

教育研究

◀ 研究主題 ▶

児童生徒が自ら進んで

『知る・選ぶ・生かす』姿を目指して (1年次)

I 主題設定の趣旨

1 前年度までの教育研究での成果と課題

本校では、平成30年度から令和2年度までの3年間、研究主題を「今、そして社会へ。児童生徒一人一人の『生きて働く学び』を目指して」と設定し、「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」の三つの育てたい資質・能力を基に、児童生徒が各教科等の特性に応じた見方・考え方を働かせ、生活に生かすことのできる力を育むことに着目して研究実践を進めてきた。

「生きて働く学び」を具現化し、学びを生活に生かすために各教科等の特質に応じた見方・考え方を働かせる手立てを授業に取り入れたり、単元や題材を通して児童生徒が「問い」を持ち一人一人が思考・判断できるような工夫を行ったり、「習得・活用・探究」という学びのプロセスを意識した指導計画を構想したりして、授業づくりに取り組んできた。こうした実践を重ねる中で、児童生徒の学びを一つの授業の中で完結させるのではなく、教師が意図的に授業以外の場でも手立てを講じて学びを実践できる場を設けることで、他の授業や休み時間、学校外の様々な場面で、学びを生かす姿につながる事が明らかとなった。

しかし、学校外での社会生活では、支援者が限られ、授業で学んだことを生かすことができる場が常に整えられている訳ではない。日常生活や社会生活の様々な場面で児童生徒が学んだことを発揮できるようになるには、児童生徒が自ら進んで物事を考え、問題に気付いて解決しようとしたり、学んだことを生かしたりする力を高めていく必要性を感じた。

2 研究主題設定の意図

学習指導要領では、「生きる力」を育むために各教科の目標や内容を「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の三つの育てたい資質・能力で整理、具体化し、さらに教科等横断的な視点に立った資質・能力として、「言語能力」「情報活用能力」「問題発見・解決能力」等が挙げられている。また、各教科の資質・能力の育成を目指すために、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業実践が求められている。特に、「深い学び」を促す教育活動の一つとして挙げられるのが問題解決的な学習である。教師の指導のもとに自ら問題や疑問をもって自ら解決する問題解決的な学習は、主体的な学習態度を養うことができるとともに、育まれた問題解決能力は、日常生活や社会において問題場面に遭遇した時にそれらを主体的に解決する時に役立ち、自ら学び続ける「生涯学習できる力」にもつながっていくとされている(北, 2012)。また、特別支援学校学習指導要領解説(平成30年)では、教育的対応の基本として「自発的な活動を大

切にし、主体的な活動を促すようにしながら、課題を解決しようとする思考力、判断力、表現力を育むよう指導する」と記載され、知的障がいのある児童生徒においても問題解決的な学習を取り入れて指導することが重要であることが示されている。

本校においても、これまでの実践に加え、問題解決的な学習を取り入れることで、児童生徒の自ら進んで物事を考えたり、問題に対して解決しようとしたりする力が身に付けば、授業の時間に限らず様々な場面で児童生徒が自ら学びを生かすことができ、生活をより充実させることができるのではないかと考える。

3 研究を通して育てたい児童生徒の力「問題解決していくために必要な力」

本校の教育目標（目指す人間像）には、「自分を高めようと努力する人」「他人をだいにしようとする人」「社会につくそうと努力する人」の三つが示されている。これまで、本校において上記の教育目標の達成を目指し、教育活動を実践してきた。自分を高めようとするためにも、社会につくそうとするためにも、何が問題なのかを捉え、主体的に問題を解決していこうという姿勢が求められる。本校の教育目標の達成に向けても、児童生徒の資質・能力を高め、問題解決していく力を高めていくことは重要だと言える。

問題解決していく力について、学習指導要領では「問題発見・解決能力」として「物事の中から問題を見出し、その問題を定義し解決の方向性を決定し、解決方法を探して計画を立て、結果を予測しながら実行し、振り返って次の問題発見・解決につなげていく過程」と示されている。また、「深い学び」の視点からは、各教科等の見方・考え方を働かせながら、学んだ知識を関連付けてより深く理解したり、問題を見いだして解決策を考えたりする学びの過程を大切に学習展開が求められている。知的障がいのある児童生徒にとって、自ら問題を問題として意識化することは難しい（田口, 2019）ため、本校では、問題解決の過程の中でも、児童が問題を捉えた後の「解決の方向性を決定し、解決方法を探して計画を立て、結果を予測しながら実行」する部分に焦点を当てる。この問題解決の過程を遂行する力を本校では、「問題解決していくために必要な力」とし、さらに「知る」（知識、技能）、「選ぶ」（思考、判断）、「生かす」と（主体的な活動）という三つの力に整理して考える（表1）。学習指導要領に示されている三つの育てたい資質・能力とも関連しており、「知る」は「知識及び技能」に、「選ぶ」は「思考力、判断力、表現力等」に主にに関わり、「生かす」は「知る」「選ぶ」の過程を経て表現される児童生徒の姿として捉える。なお、「学びに向かう力、人間性等」は、児童生徒が問題や学習課題を捉え、「知る」「選ぶ」「生かす」の力を生かして問題を解決していく児童生徒の主体的な取組と考える。

表1 「問題解決していくために必要な力」を支える三つの力

知る (知識、技能)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 問題にかかわる知識や技能を習得する。 ○ 問題にかかわる既習事項を想起する。 ○ 知識についての理解をより深める。
選ぶ (思考、判断)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 問題を解決するために必要な知識や技能を選択する。 ○ 問題の状況と知識や技能を結び付けて、解決方法を考え、決定する。
生かす (主体的な活動)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 問題を解決するために選択したことや考えたことを実行する。 ○ 実行した結果について振り返る。

以上の三つの力から成る「問題解決していくために必要な力」を発揮することで、児童生徒が問題や目標に対して、解決策を見だし目標達成に向けて主体的に行動することができるようになるのではないかと考え、本校では研究を通して児童生徒の「問題解決していくために必要な力」を育てていきたい。

4 研究の取組の考え

児童生徒は自ら問題や疑問をもって自ら解決していく学習を繰り返し体験することで、問題を解決するための過程を学び、児童生徒の問題解決能力を育てることができる（北, 2012）。本校では、問題を解決するための過程を「『知る・選ぶ・生かす』の学習サイクル」とし、「問題解決していくために必要な力」である「知る」「選ぶ」「生かす」の三つの力を働かせて問題を解決し目標を達成する学習の流れを設定した（図1）。この「知る・選ぶ・生かす」の学習サイクルを取り入れた授業実践を行うことで、児童生徒が問題を解決する過程を繰り返し体験することによって、「問題解決していくために必要な力」を高めていくことができると考える。なお、「知る・選ぶ・生かす」の学習サイクルを取り入れた授業において、教師は児童生徒が問題や学習課題を主体的に捉え、意欲を持って学習取り組むことができるように目標を設定することが求められる。

また、児童生徒の「問題解決していくために必要な力」を育てるにあたって、教師自身が児童生徒の「知る」「選ぶ」「生かす」姿を的確に捉える必要がある。児童生徒が既にもっている「知る」「選ぶ」「生かす」姿や授業を通して成長した「知る」「選ぶ」「生かす」姿を的確に見取り、適切に評価していくことで、「知る・選ぶ・生かす」の学習サイクルを取り入れた授業の在り方や教師の指導の有効性を探ることができると考える。

以上のように、「知る・選ぶ・生かす」の学習サイクルを取り入れた授業実践や、児童生徒の「知る」「選ぶ」「生かす」姿を的確に捉え、評価していくことで、「問題解決していくために必要な力」を育てる授業の在り方や効果的な指導・支援が明らかとなり、児童生徒の「問題解決していくために必要な力」を育み、児童生徒が主体的に問題を解決していく姿につなげることができるだろう。

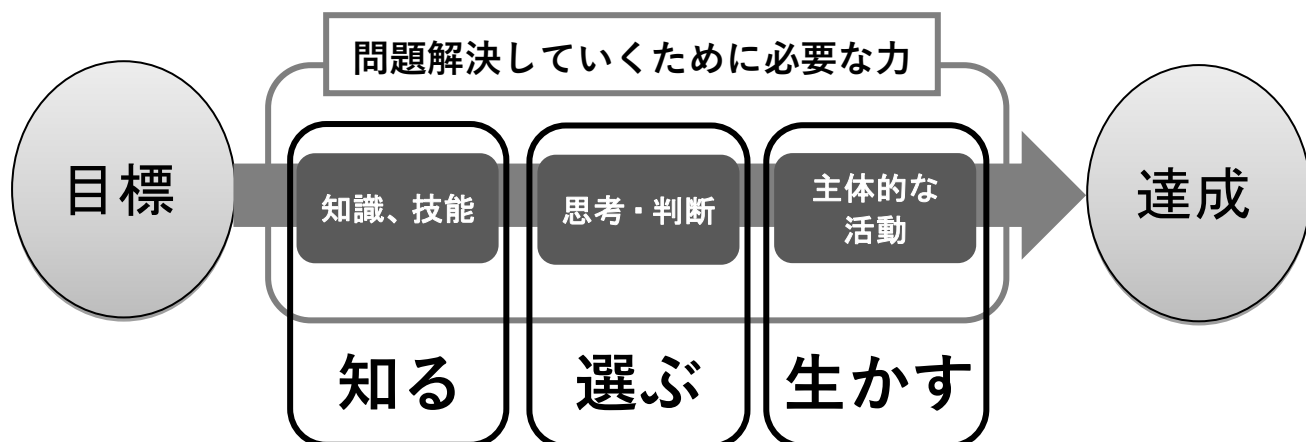


図1 「知る・選ぶ・生かす」の学習サイクル

II 研究の概要

1 研究の目的

児童生徒一人一人が「知る・選ぶ・生かす」といった学習過程を通して、問題の解決の見通しをもち、目標に自ら進んで向かうことができる姿の実現を目指す。

2 研究の内容

- (1) 「知る・選ぶ・生かす」の学習サイクルを取り入れた授業を実践し、教師の指導の在り方等の有効性を検証する。
- (2) 児童生徒の行動から「知る・選ぶ・生かす」姿を的確に捉え、適切に評価していく。
- (3) 「知る・選ぶ・生かす」の学習過程における児童生徒に必要な力や効果的な指導等について整理し、指導・支援の充実を目指す指標を作成する。

3 研究の方法

- (1) 学部ごとに研究授業を行い、「知る・選ぶ・生かす」の学習サイクルを取り入れた授業実践について考察する。
- (2) 授業や日常生活での児童生徒の行動の様子から「知る・選ぶ・生かす」姿を捉えて評価し、その変容や成長の要因を考察する。
- (3) 授業実践をもとに、「問題解決していくために必要な力」を洗い出すとともに、その力を高めていく効果的な指導について整理する。

4 研究の計画（3年計画）

年間	<ul style="list-style-type: none">・ 「知る・選ぶ・生かす」の学習サイクルを取り入れた授業づくりを実践する。・ 児童生徒の「知る」「選ぶ」「生かす」姿を見取り、評価する。・ 児童生徒の「知る」「選ぶ」「生かす」姿の変容から、「知る・選ぶ・生かす」の学習サイクルを取り入れた授業の在り方や効果的な教師の指導・支援を探る。
1年次	<ul style="list-style-type: none">・ 「知る・選ぶ・生かす」の学習サイクルについての共通理解を図る。・ 児童生徒の「知る・選ぶ・生かす」姿を捉える。
2年次	<ul style="list-style-type: none">・ 授業実践をもとに、「知る・選ぶ・生かす」の学習過程において、児童生徒の「問題解決していくために必要な力」を洗い出す。
3年次	<ul style="list-style-type: none">・ 「知る・選ぶ・生かす」の学習過程において、児童生徒の「問題解決していくために必要な力」を整理し、指導・支援の充実を目指す指標としてまとめる。・ これまでの研究の成果と課題を明らかにし、次期主題研究につなげる。

5 1年次研究の計画

(1) 研究仮説

「知る・選ぶ・生かす」の学習サイクルを授業に取り入れることで、児童生徒が「問題解決していくために必要な力」を発揮して、目標に向かって問題を解決していく姿につながるだろう。

(2) 研究内容及び方法

内容Ⅰ 「知る・選ぶ・生かす」の学習サイクルを取り入れた授業づくり

- ・ 研究全体会や授業実践の場を通して、「知る・選ぶ・生かす」の学習サイクルについての共通理解を図る。
- ・ 学部ごとに授業実践を通して、「知る」「選ぶ」「生かす」の視点を取り入れた授業づくりを行う。
- ・ 児童生徒の姿を「知る」「選ぶ」「生かす」の視点で観察し、事後研究会での協議を通して、授業の組み立てや教師の手立ての妥当性や有効性について検討する。

内容Ⅱ 児童生徒の「知る・選ぶ・生かす」姿の的確な把握

- ・ 単元や授業を構想する際に、「知る」「選ぶ」「生かす」視点から児童生徒の目指す姿を明確にして、授業実践を行う。
- ・ 授業参観において、児童生徒の行動、表情、反応等から児童生徒の「知る」「選ぶ」「生かす」姿を捉えて、評価する。

<引用・参考文献>

文部科学省（2018）：特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編（幼稚部・小学部・中学部）

北俊夫（2012）：「教育の小径」 No. 49 11月号 ぶんけい教育研究所

田口則良（2019）：「生きる力を育てる学習支援 知的障害児のために」 星雲社

福島大学附属特別支援学校（2019）：今、そして社会へ。児童生徒の一人一人の「生きて働く学びを」
を目指して 研究紀要第41号

福島大学附属特別支援学校（2020）：今、そして社会へ。児童生徒の一人一人の「生きて働く学びを」
を目指して 研究紀要第42号

福島大学附属特別支援学校（2021）：今、そして社会へ。児童生徒の一人一人の「生きて働く学びを」
を目指して 研究紀要第43号